

事業所名

放課後等デイサービス きらり庵

支援プログラム（参考様式）

作成日

2025年

1月

31日

法人（事業所）理念		法人理念【我々は、すべての人が和らしようという、自然の営みのなかにはたらきを学び、存在するすべてのものに対し畏敬の念をもって尊重し、共に生きることを希求する。それは、どこにあっても相手の立場に立ち、相手を思いやり、一番弱くて困窮している生命を、中心にし大切にすることを育むことである。どのような時でも、その理念を実践することが我々の願いであり、祈りである。】											
支援方針		異年齢の交わりを活かし、集団・小集団・個別で過ごす時間を設定している。集団活動では、壁面製作やおやつ作りなど季節感や五感を感じられることを大切にしている。また、さまざまな活動を通して、興味関心の幅を広げ友だちと気持ちを通わせ合いながら、創造力や表現力、期待感をふくらませている。個の発達・集団の発達を保障した実践も取り組んでいる。さらに、子ども達を「主人公」とし、1人ひとりの「～したい」という思いや願いを大切に、異年齢集団の中でお互いに支え合ったり高め合うことで、自分を、そして友だち（他者）を認められる個人・集団づくりを大切にしている。そして、日々の活動や遊びを通して、かけがえのない自分づくりの土台をきらり庵で創り上げることが願いである。											
営業時間		平日 休日	14 9	時 0	分から	18 16	時 0	分まで	送迎実施の有無	あり	なし		
支援内容													
本人支援	健康・生活	自宅での生活リズムや体調の把握をしながら、健康で基本的な生活習慣の自立に繋がるように日々を積み重ねていく。排泄場面では、活動の前に時間を設定し、チェック表をもとにして促したり見守っている。食事場面では、姿勢保持を意識しながらスプーンやフォーク・お箸の持ち方、食べるペースにも配慮し、本人の持っている力の維持と向上を高めている。また日々の予定や流れを視覚的に分かりやすいように、事前に利用カレンダーを配布し、当日は絵カードや写真などを用いてスケジュールを提示して、1人ひとりがつもりをもちながら主体的に過ごせるような配慮を行っている。											
	運動・感覚	プレイルーム（運動室）・スヌーズレンなど目的に合わせて活動できる環境を設定。外にはグラウンドもあるため、のびのびと身体を動かすこともできる。日々の活動の中でも、運動や感覚を目的とした活動にも取り組んでいる。運動面では、ミニゲーム大会としてチームで楽しくゲーム感覚で身体を動かしたり、季節を感じながらのさんぼやヨガストレッチをしながら筋肉をほぐしたり関節の変形の予防・姿勢の保持を目的で取り組んでいる。感覚面では、風船や片栗粉・スライム・寒天などを使用して感覚刺激を感じられるような活動を設定したり、製作活動の中でも色んなアイテム（絵具やビー玉など）を用いて五感のさまざまな感覚を感じられるような活動を組み立てている。											
	認知・行動	粘土やプラ板、パズル、ビーズ、ぬりえ、カード遊びを通して、形や色・空間などの概念を理解し、形にしていく認知の発達を促している。また、伝えたり選択しながら主体的に行動できるように、文字盤や絵カード・写真を用いて、認知と行動の手がかりになるように繋げている。											
	言語 コミュニケーション	「～したい」思いを伝えられるように、活動の話し合いを設定している。翌月にやりたいことを1人ずつ発表してもらい、今までのいろいろな経験をもとに「～したい」という思いを伝えること、それが翌月活動として反映され実現できる喜びを感じられる機会に繋げている。言葉での発信が難しいケースは、絵カードや写真・文字盤を用いて、目視や身振り・指差しなどで自分の思いを伝えられる方法の幅を広げていくことを大切にしている。											
	人間関係 社会性	自分のことを知る、好きになることができるように、まずは支援者との関係の中で「～したい」「～だ」という自我の芽生えを育てていく。さらに活動や遊びの中で、友だちと共感しあったり喜び合えるような設定を意図的に設けることで自他を意識することができるようになり、譲ったり、相手の思いに気付けるなど仲間意識が高まったり、自分のことも他者のことも大切に思える、そんな関係性の構築を長い時間をかけて丁寧に積み重ねている。											
家族支援		保護者会を年1回開催し、子ども達の様子を写真や動画などスライドを使用して成長を共に喜びあえる時間としている。グループ懇談会なども行い、家庭での困りごとなどを保護者同士で情報共有できる場面も設けている。また、希望がある場合は事業所内や自宅に訪問して面談を行い、悩みや課題などの聞きとりをして関係機関と情報共有したり支援に繋げている。				移行支援		進路や移行先の選択について、保護者・相談員・学校とも情報共有しながら、相談援助を行っている。ケースによっては移行先、実習期間にフォローできる体制を作り、補助支援として介入している。					
地域支援・地域連携		学校と事業所での様子や課題などを送迎時などで共有し、連携できるように図っている。また他事業所の放デイと情報共有したり見学に行かせてもらい、横のつながりも意識しながら事業所の運営や支援に活かしている。相談員とも保護者や利用者の様子や思いの情報共有を密に行っている。また活動の一貫として、地域主催の枝豆狩り体験に出かけ、地域の方との触れ合いの中で社会性や経験を積みながらも、障がいのある子ども達や事業所への理解に繋げている。				職員の質の向上		<ul style="list-style-type: none"> ・方針、中間、総括会議にて事業所の方針に対して支援の統一を目的として行っている。 ・スタッフ会議（パート、アルバイト職員対象） ・支援会議（1つのケースを議題にし、理解を深める） ・外部研修 ・法人研修（法人全体、階層別研修） 					
主な行事等		<ul style="list-style-type: none"> ・保護者会 ・保護者参加型の活動（おやつ作りなど） ・外出イベント（カラオケ、工場見学、電車に乗るなど） 						<ul style="list-style-type: none"> ・昼食作り、おやつ作り ・夏祭り ・コンサート（利用者企画） ・クリスマス会 ・きらフェス（子ども達の得意なこと、好きなことを発表） 					